

☆ECB(欧州中央銀行) 量的緩和導入を決定

株式市場は導入を好感し、軒並み上昇

ECBは1月22日、量的金融緩和の導入を決定しました。今年3月から2016年9月末までの期間で、毎月600億ユーロ(約8兆円)の国債を含む資産の買い入れを実施する予定です。資産買い取り規模は市場予想を上回る一方で、買い入れ期間は市場予想よりも3か月ほど短い内容となりました。量的緩和の規模、内容およびその効果については様々な反応が見られるものの、22日の欧州の各国株式市場は量的緩和導入を好感し、軒並み上昇する結果となりました。

欧州リートに追い風期待

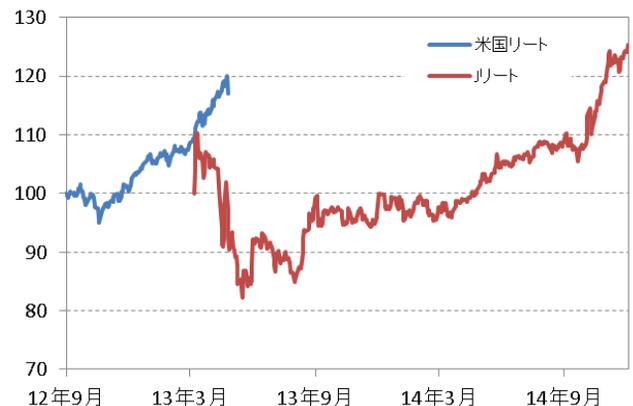
緩和策導入発表後、ユーロは対米ドルで下落し、1ユーロ=1.14米ドルを下回る水準で取引されています。ユーロ安の動きによる欧州圏デフレ圧力の緩和、欧州輸出企業の業績改善が期待されます。また、過去の米国、日本での量的緩和導入後の各リート指数の動きに目を転じると、量的緩和導入後、いずれの指数も半年から1年半ほどの間に20%程度の上昇を記録しています。量的緩和を通じた長期金利の低下は、賃料収入を背景とした利回り資産であるリートの相対的魅力を高めることから、今後の欧州リート市場への好影響が期待されます。

各国中央銀行の総資産推移(2008年12月~2014年12月)
※2008年12月末数値を100として指数化



各中央銀行による量的緩和実行後のリート価格推移
(2012年9月28日~2014年12月30日)

※米国リートは2012年9月28日数値、Jリートは2013年4月3日数値を100として指数化



※上記は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

※米国リートはMSCI米国REITインデックス、Jリートは東証リート指数。米国リートは量的金融緩和実施前営業日である2012年9月28日からバーナンキ前FRB議長が量的緩和終了に言及した2013年5月22日までの推移。Jリートは量的緩和実施前営業日の2013年4月3日から2014年12月30日までの推移

出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

【本資料に関するご留意事項】

本資料はBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が上記日付で作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。